



宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU ユー・ユー・ナウ
now

OB. INTERVIEW

変革の時代に

創造しチャレンジする

株式会社中村屋代表取締役社長 染谷省三

CONTENTS

- 1 OB. INTERVIEW
- 4 特集 EPUU (イープー)
- 6 地域貢献REPORT
- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室&ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 UU News / 宇大検定
- 14 INFORMATION
- 15 学生アンケート 宇大生は今!
- 16 サークル紹介 / 編集後記



変革の時代に創造しチャレンジする

東京・新宿『中村屋』の社長、染谷省三さん。「宇都宮大学の人たちに会えるのを楽しみにしていました」と笑顔で私たちを迎え入れてくれた。変革の時代に企業が生き残るために「創造」と「チャレンジ」の重要性を語る。大学時代に学んだ「新しいものを生み出すための考え方の手順、方法論」が、いま、大きな力になっている。（取材／国際学部3年・中村真惟、農学部2年・野々村拓真）

■創造し結果を出すことの喜び

染谷さんは東京都出身。大学卒業後は、「やはり、東京で仕事がしたいと思った」。『中村屋』は東京・新宿を代表する和洋菓子の老舗だ。入社は、大学で所属した研究室出身の先輩が同社にいたことが縁となった。「技術屋（研究員）になるつもり」が、事務系の部署に配属され、主に企画開発畑を歩む。「試験管を振ると

いろいろなことは一度もなく、ここまで来てしまった」と笑う。「いま振り返ってみると一番大事なことは、目の前の仕事をどれだけきちつとやるかどうかだと思います。ただ、『これはぜひやりたいんだ』という気持ちには、いつまでも持ち続けることが大切です。それがなければ、チャンスが目の前を通り過ぎるのを見逃してしまつし、（前へ向かう）エネルギー



プロフィール

■染谷 省三【そめや・しょうぞう】

1943年、東京都生まれ。68年、宇都宮大学農学部農芸化学科卒。同年、株式会社中村屋入社、生産管理課配属。95年、経営企画室長。01年、取締役経営企画統括部長。05年、取締役兼執行役員菓子事業部統括部長。09年、代表取締役社長就任。

ギーが生まれてこない。一個人だけではなく、会社にも言えることです。新しい業種、業態を開発する仕事に数多く携わった。「新しく創造したものがお客様に受け入れられ、評価されたときに一番喜びを感じる」。子会社に4年間出向していたとき、その思いを強くする経験をした。赤字会社の業績を回復するため付加価値の高い商品をつくることを提案。赤字は一掃され、工場の設備改善まで実現できた。創造し結果を出すことの喜びを肌で感じる事ができた印象深い仕事となった。

■学生時代は、人生で一番楽しい時期

宇都宮大学の入学試験は、高校卒業後2年弱勤めた会社の退職金を入学準備金として挑戦した。

「当時、授業料が都立高校より安い国立大学で、化学が勉強できることが第一の条件でしたが、宇大を選んだ理由の一つは伝統のある大学ということです。歴史のある大学は学問的な蓄積もあるし、多彩な人材を送り出している。入学してみると、当時活躍していた政治家の中に宇大出



宇都宮大学馬術部時代(最前列右から2人目が染谷さん)

身者がかなりいることを知り驚いた。宇都宮高等農林学校からの伝統を感じた」。

2年生の時に総合農学科から農芸化学科に転科。「ようやく、自分が思っていた化学の勉強のできるところに行き着きました」。

農産物利用学講座に所属し、主に乳酸菌を研究した。「味の大家」だった茂野悠一教授をはじめ担当教員が4人、所属学生は6人だった。「大学で学んだ、新しいものを生み出すための、ものの考え方の手順、方法論、研究に向かう態度というものが、いま、とても役に立っています」。



も私のこころの中にあります」。

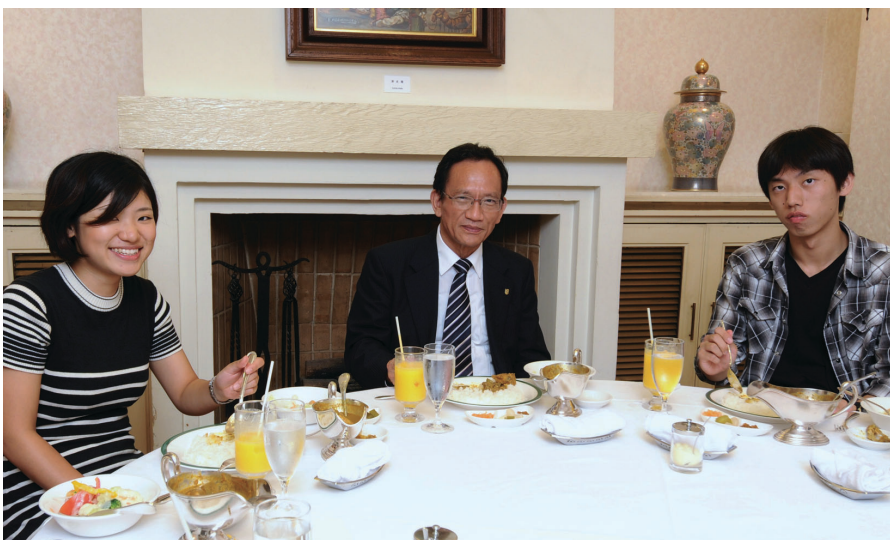
■長い歴史のリレーランナーの一人として

『中村屋』は、2011年に創業110周年を迎える。元祖クリームパンや純印度式カリイをはじめ中華まん、月餅など独創的な商品を世に送り出してきた。また、文化芸術活動を支え、『中村屋サロン』と呼ばれる文化人グループが形成される独自の企業風土を培ってきたことも、『中村屋』のもう一つの顔である。「他の会社にはない伝統、企業風土です。文化的活動に関われることの幸せを感じます」。

来春、中村屋協働企画展『新宿中村屋に咲いた文化芸術』が新宿歴史博物館で開催される。

「社長という立場になって思うことは、私は『中村屋』の長い歴史のリレーランナーの一人だということです。いかんがい形で次にバトンタッチするか。偉大な創業者の商業経営哲学を受け継ぎ、伝えていく責任が我々にはあります。『中村屋』ブランドに対する信頼を、いま以上に増幅させることも大きな使命です。そのために仕事をしているし、そのことが『中村屋』を取り巻くあらゆるステークホルダー（関係者）の幸せにつながると考えています」。

(文・レオス編集部／撮影・木原悠策)



新宿『中村屋』で、伝統ある「カリイ」を味わう（写真左から中村、染谷さん、野々村）

講座のメンバーで頻繁に飲み会が開かれた。「毎回、先生が千円札を渡してくれて、学生が酒とうどん玉を買いに走り、先生がつゆを作った。このつゆが絶妙でした。コミュニケーションの場ということなので、先生たちの何気ない心遣いが、身に染みしました」。

部活は馬術部。福島競馬場からリタイアした競走馬を譲り受け、深夜、ガソリンスタンドのアルバイトで稼いだお金で馬の餌を調達したことを覚えてる。

家庭教師先の家族、下宿のおじさん、寮のおばさん、居酒屋で隣り合わせになった酔客……。『学生をとて大事にしてくれた。大学時代の一番の思い出は、人のやさしさ、おもいやりです。無事、大学を卒業できたのは、そういう人たちが支えてくれたから。人生において最もいろいろなことを感じ、一番楽しい時期に過ごした学生時代への想いは、いつ



ENGLISH PROGRAM OF UTSUNOMIYA UNIVERSITY

EPUUの4大特徴

■TESOL教員団による企画運営

- ・授業担当教員は原則として、ネイティブスピーカーと、欧米の大学院でTESOL（英語教授法）を専攻した日本人
- ・教員団が宇大独自の教授法や教材を開発し、統一シラバス、統一教材を使用
- ・全て英語で行う授業

■習熟度別授業

- ・TOEICに基づいた習熟度別プログラムを設置
- ・習熟度の高い学生や帰国生のための充実したオナーズ・プログラム
- ・習熟度の低い学生のためのリメディアル教育

■「浴びる英語」

- ・可能な限り多くの英語に接触することにより英語力を向上させる学習システムを構築
- ・CALLラボ、リーディングラボ、DVDラボ、シアター、クリニックの活用
- ・楽しく主体的な自律英語学習

■教材は映画

- ・欧米の映画を教材に、英語の口語表現や欧米文化を学習
- ・1年次は、週3回中1回は映画英語の授業
- ・2010年度の使用映画は、「I am Sam」「Mrs. Doubtfire」「School of Rock」

EPUU(イープー) 宇大の英語は「浴びる英語」



EPUUの教員

パワフルで熱心な先生が揃い、学生の人気も高い。授業に対する学生評価で、「Integrated English」担当教員グループが、今年の「ベストレクチャー賞」を受賞しました。



EPUUコーディネーター
江川美知子教授
(共通教育センター副センター長)

英語が好き人はもつと好きになり、英語が苦手な人は好きになるようなプログラムです。卒業までには英語の力が相当伸びると思います。

宇都宮大学は2009年度から「EPUU(イープー)」と呼ばれる新しい共通教育英語プログラムを開始しました。テーマは「浴びる英語」。可能な限り英語と接触することで英語力を向上させることが、「EPUU」の特徴です。平野あやかさん(国際学部1年)と今泉雄仁さん(農学部1年)の2人に、「EPUU」を紹介してもらいましょう!

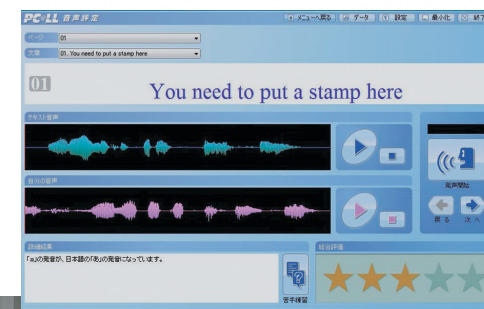


平野さん

今泉さん

■CALLラボ

キミの発音、星いくつ? コンピュータが発音を直してくれる。



キミの発音、星いくつ? コンピュータが発音を直してくれる。

■DVDラボ

欧米の映画のDVDが530本。32席あり、自由に利用できる。



平野「私は、英語の音声を聴いて英語の字幕を流します。分からない時は一旦停止して日本語訳を確認します。操作は簡単で、楽しみながら英語力を伸ばせます」
今泉「僕は、英語の音声を聴いて日本語の字幕です。時々、不思議な日本語訳が出るので、そこを英語字幕に切り替えて確認。こんな訳し方、表現があるんだと分かっておもしろい」



■クリニック

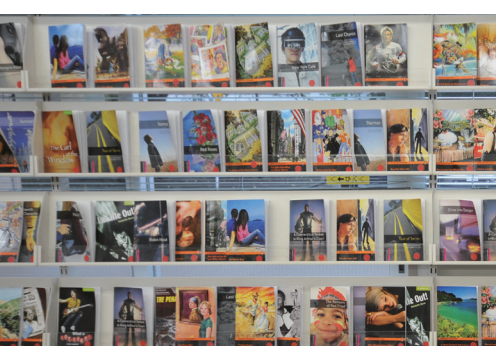
ネイティブスピーカーが常駐。予約制で会話の勉強ができる。

平野「ネイティブの発音が聞けて、例えば、英語の言い回しの微妙なニュアンスなどをきちんと自分の耳で聞き取って学べるという、新しいことに挑戦できる環境があります」
今泉「教科書とは違う生きた英語、血が通った英語が学べます」



■シアター

DVDラボにあるDVDを上映。5人以上集まれば、事前に申込用紙を提出した上で希望のDVDを上映できる。上映日時が入口に掲示されるので、希望者は誰でも入室できる。



■リーディングラボ

中学レベルから専門レベルまでの洋書5000冊が揃つ。



英語は数をこなすことが大切。ひんぱんに足を運ぶことが習慣化すると、英語もつまくなると思います。



椅子も音響も本場の映画館みたいで楽しいです。





宇都宮大学 地域貢献 REPORT 2

スクールサポート 地域教育のニーズ に応える

大学キャンパスに近い宇都宮市立石井小学校。同小で授業をサポートするボランティアをしている教育学部4年の菊池麻実さんと五味渕幸さんは、それぞれ「分からないことがあって表情を曇らせていた子が、ちょっとした手助けをしてあげること、理解し笑顔になるのを見ると、うれしい」、「教員になりたいというモチベーションが上がる。いろいろな先生の授業を見ることがあるので勉強になる」と話す。2人は、10月に発表された栃木県の教員採用試験に合格した。

一方、「宇大の先生」に接した子どもたちは「そばにいて、一人ひとりのことをじっくり見てくれるのでうれしい」、「アドバイスをしてくれるので、失敗も楽しくなる。学校の先生は忙しいのでなかなか一人ひとりを見る事ができないけど、大学の先生は気持ちよく楽しく見てくれる」という。



菊池麻実さん「学校では先生として扱われるので、しっかりしないといけない」



五味渕幸さん「大学で習う知識だけではなく、もっと経験をしておきたい」

地域教育界への社会貢献を進めながら、
成果を教員養成機能の充実に生かす
教育学部附属スクールサポートセンター

石井小の学生ボランティア受け入れ担当、阿部恵美子教諭は「学生が来て大人の手が増えることで、子どもたちはより多くの大人に接することができ、特に勉強につまづいている子どもには非常にいいことです。年齢が近いこともあって、お姉さん、お兄さん気分です。学校の先生に言えないことを気軽に言えるようです。子どもは正直ですから」と話す。

阿部教諭は、ある男子学生のことが印象に残っているという。「1年間来てくれました。昼休みから来て子どもたちと遊び、つしよりになって遊び、慕われていました。不登校気味の女の子がいたのですが、一緒にブランコに乗りながら彼女の話を聞いていました。教員だけでは手が回らない部分をフォローしてもらって、非常に助かりました。女の子も彼には話しやすかったようで、心を開くきっかけになったと思います」。

センター長の松本敏教授は「教員の平均年齢が高齢化している現状の中、若い学生が行くだけでも学校はすごく元気になる。初々しさを注入できて、子どもも先生もフレッシュな感じを持ってもらえる」と話す。

また、教員が抱える問題が複雑、多様化し、一つひとつが重い問題になっている現状をサポートを求める背景になっていることを指摘。「例えば、軽度発達障害の子どもの増え、教育現場は限られた時間でもいいから、傍でついて見てくれる人が欲しいという思いを持っています。また現場の教員は、第三者的な立場で大学教員から助言・指導を受けることが新鮮で新たな発見があるようです」と話している。

宇都宮大学 地域貢献 REPORT 1

アグリカレッジ 農業を科学する



高校では体験できない科学的アプローチを、
第一線の研究者が指導
高校・大学連携事業「アグリカレッジ」

アグリカレッジは、栃木県内の農業関係高校7校と連携し「農業を科学する」をテーマに、高校生が向き合っている科目の科学的深さ、高校では体験できない科学的アプローチを、第一線の研究者である大学教員が講義や実験などを通して提供することを目的に2004年度に開講した。

食糧に関する科学分野の進展とともに、生産・加工・消費・循環を一連の体系として知識を深めることの重要性が増している中、高校の教育現場は、実践的な実習を多くこなすことに追われ、科学的視点に立った農業を考える余裕がない。こうした状況を補うための先駆的な取り組みとして注目されている。



「環境マップを作ってみよう」の講座

土曜日や夏休み期間などを利用し講座が開かれ、毎年、連携高校から40人前後の高校生が参加している。今年度は、附属農場や附属演習林を利用した講義も交え、植物の染色体、哺乳動物の生殖、マーケティング、野菜と果実の加工に伴う成分変化など、全10回の講義があり37人が受講、9月に修了式を迎えた。

修了式を前に受講生の代表が感想を発表。「大学レベルの授業で難しいところもありましたが、とても充実していました。特にマーケティングは高校の学科では勉強できないものなので興味がわきました」(栃木農業・室岡淳さん)。「一番印象に残ったのは、哺乳動物の生殖です。高校は農業機械科なので生物のことはよく知らなかったのですが、詳しく教えてもらったのでよかったです」(真岡北陵・阿久津達也さん)。「農業には関係ないと思っていたマーケティングの大切さがよく分かりました。進学を希望しているので、アグリカレッジで学んだことを生かして頑張りたいと思います」(矢板・増淵朱里さん)などと述べた。

茅野基治郎農学部長は「最先端の科学のおもしろみを分かりやすく伝えることが学ぶことの動機づけにな

修了生たちが、農業後継者や地域のリーダーとして育つよう継続的にサポートすることもカレッジの重要な役割である。「修了生、農業関係高校、農学部の継続的なネットワーク」として「アグリカレッジ同窓会」を設立し、具体的な支援の一つとして、営農技術やアグリビジネスに関する相談、インターネットを利用した農産物の直販などの窓口として利用できるホームページ「アグリカレッジの窓」の構築を進めている。茅野農学部長は「修了生のネットワークづくりを支援し、食や農の大切さを伝えていく人の輪が広がれば、何かおもしろいことができるのではないかと期待している」と話す。

修了生たちは250人を超えた。そのうち12人が宇都宮大学に進学している。



「アグリカレッジの窓」
<http://www.uac-wind.org/>

Welcome to 研究室 & ゼミ

ロボット技術とその応用研究

「創造の鍛錬」をキーワードに、「自由」かつ「楽」しく研究しています。研究課題は、ロボット技術とその応用研究です。ロボットには総合的な技術が要求されるので、幅広い知識が必要になります。また、新しいアイデアを実物にする力も求められます。この研究室では、学生が自由に課題を選び、責任を持ってそれに取り組むことを重視しています。

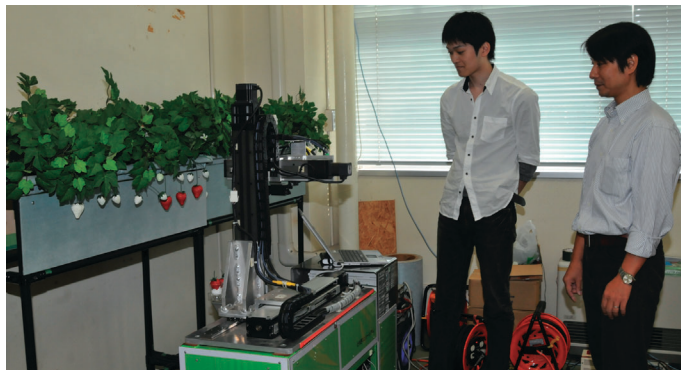
● 学生から

座学ばかりの授業で物足りなく感じ、何か自分で作りたいと思っていたときに、尾崎先生の授業で電動車椅子の体験や、さまざまな機能を持つロボットの制御法を学んだことをきっかけに研究室に見学に行きました。そこで、学生プロジェクトである「つくばチャレンジ（）」を知り、3年生からそのプロジェクトに参加しました。この活動で、先輩たちからいろいろ話を聞かせてもらったり、手伝いをしたりするうちに、私も「ロボットが動かせたらいいのになぁ」という思いが強くなり尾崎研究室に入りました。この研究室には、さまざまな研究班があり、みんな自立的に活動しています。各研究班はそれぞれ自分の研究を精力的に進めていて刺激的です。課題は難しい内容ですが、モチベーションを維持しながら楽しく研究生活を送っています。

機械システム工学科4年 菊地 里紗

自ら考え行動するロボット（自律ロボット）が、実際に人が生活する街の中で、速度を競うのではなく、『安全かつ確実に動く』ことを目指す技術チャレンジ。工学部では学生プロジェクトとして活動している。

何かおもしろいことをやりたいという気持ちから、ユニークオーラをいっぱい出していた尾崎先生の研究室に



いちご摘みのロボット（右が尾崎准教授）



計測・ロボット工学研究室 【工学部】

倒立型2輪移動ロボットに乗る野永裕太さん（院2年）



押しかけ入門しました。期待通り、機械系なのに、画像情報から空間の状況や自己位置認識できる技術に驚きました。最初は先輩たちの作業の意味は分かりませんでしたが、先輩たちに教わっているうちに、ロボットを動かすためのプログラムや数式の表現を学びました。また、この研究室には、社会人ドクターが多く在籍し、学位（博士）を持った先輩との共同研究も盛んで、大先輩から研究のことはもちろん、企業での取り組みなどいろいろな話が聞け、勉強になります。尾崎研究室は自由な気風がありますが、成果が厳しく求められます。日々プレッシャーを感じながらも、楽しく研究をしています。

機械システム工学科4年 篠原 正俊

● 教員から

ロボット工学では、動かし方や知能化など基礎的な成果だけでなく、ある程度の完成されたロボットによる実証が求められるようになりました。私の研究室でも、アイデアの正しさを実証するためにロボットを積極的に製作します。ロボット製作には、機械の知識はもちろん、他の幅広い知識が求められますので、実践的な学習の題材にもなります。また、ロボットの知能化には、人間はどのように考え行動しているのか、生き物はどのように動いているのかなど、身の回りのことがヒントになります。雑談からおもしろい奇抜な発想が生まれることもあります。私たちはロボット製作を通じてユニークな「ものづくり」を実践しています。

工学研究科准教授 尾崎 功一

教職入門セミナー 【教育学部】



● 教員から

授業は、教育学部附属幼稚園・小・中・特別支援学校教員による教員の仕事や子どもの様子に関する講義に始まります。感想では「生の声が聞けてよかった」、「視野が広がった」と記され、教職について学ぶきっかけづりになっています。

講義につづいて、公立小・附属学校見学を合計3回実施します。見学日には、昼休みに学校へ行き子どもと遊び、その後に授業を参観します。また、3校を見学することにより、自ずと学校、教員の取り組みを比較しています。感想では、「教師の視点で子どもを見ることができた」、「子どもとふれあうことができ、学校現場をリアルに感じる事ができた」と記され、学校や子どもの様子、教員の職務についてリアルなイメージを持つことができるようになります。

講義と見学をふまえて「どんな教師になりたいか」について一人ずつ意見発表を行い、さらにグループ討議を行い、各自の見方・考え方が問われ、交流により理解を深めていきます。感想では、「いろいろな人の意見を聞くことで、今まで気づかなかったことに気づいた」、「他の人の意見・考えを聞くことができ、参考になった」と記され、各自の教育観、学校観、教員観を構築していく、よい機会になっています。

教育学部准教授 丸山 剛史



授業を担当する教員たち

教職の内容・意義を小集団で学ぶ

この科目は、教職（教員の職務）の内容や意義を、主に、附属学校教員による講義、学校見学、意見発表及びグループ討議を通して体験的、活動的に学ぶ科目です。また、授業では、学生は学部・学科・課程・専攻を越えた20人前後のグループに分かれ、そこに教員が1人ずつ配置され、小集団を基礎として学習が行われています。



● 学生から

（平成21年度受講生）
教師入門セミナー（）では、現職の先生方の講話や附属小学校・公立小学校の見学

を通して、教育現場の実情や教師のあり方について多くのことを学びました。特に学校見学では、初めて教職の意義や授業展開などに注目しながら授業観察を行い、教師の存在が子どもたちに与える影響の大きさに改めて気づくことができ、また教師に対する考え方が変わるような、とても貴重な体験をしました。

学校教育教員養成課程2年 福田さつき

教師入門セミナー（）は、教師を目指す、同じ志を持った仲間とともに教育について討論することができる場です。また、学校見学で実際に現場の教育を肌で感じ、現場の教師による講義やグループでの話し合いを通し、改めて自分の目標とする教師像を見つめ直し、教育について生の体験から再考することのできる、とても貴重な時間です。私はこの機会があったおかげで、改めて教師の重要性やその影響力の大きさを再認識し、より教師になりたいという気持ちが強くなりました。

学校教育教員養成課程2年 長谷川史織

平成22年度から「教職入門セミナー」に科目名変更。

【写真撮影：写真部 沼田要輔（農学部4年）】

研究 Keyword

日本文学研究を志して早30年

宇都宮大学国際学部教授 丁 貴連

グローバル化の中の日本文学

PROFILE

筑波大学大学院博士課程人文社会学研究科文芸・言語専攻修了（文学博士）。学位論文「国木田独歩と若き韓国近代文学者の群像」。担当科目は、韓国文化論・日韓文化交流史（学部）、文学と文化研究・日韓比較文学研究（大学院）



国際学部教授 丁 貴連

今、村上春樹の作品が世界各国で読まれています。米国、英国、ロシア、フランス、ドイツ、イタリアをはじめとして韓国、中国、台湾、タイ、インドネシアからクロアチア、ラトビア、ギリシャ、ルーマニア、ブラジル、スペイン、イスラエルなど、読者は全世界的に広がっています。一人の作家の作品がこれほど多くの地域で読まれるようになったのは日本文学史上初めてのことで、村上春樹が注目されるのは、彼の描く作品世界が富士山や着物、歌舞伎、能、茶道、桜といった伝統的な日本文化を描くこれまでの日本文学と違って、アメリカナイズされた欧米文化のアイコンに満たされているからです。

つまり、村上春樹は自国の特殊な文化や観念、考え方、表現などを強く主張せず、徹底してグローバル化・国際化を目指した作家なのです。



村上春樹『ノルウェイの森』韓国語版

この村上春樹の意図は的中し、彼の作品は脱政治化、脱歴史化へと突き進む後期資本主義世界を生きる若者の心をつかみ、虜にしました。私が日本文学を読みだした30年前の状況を思うと、文字通り隔世の感を禁じ得ません。

エキゾチックな日本

私を日本文学というマイナーな世界に誘い入れたのは、いわゆる田口二郎と呼ばれる川端康成、谷崎潤一郎、三島由紀夫らの作品です。彼らは、村上春樹より遥か以前に世界各国に翻訳・紹介されましたが、無論、大衆的な人気を博することはできませんでした。それは、川端康成



川端康成『雪国』英語版

たちが人類普遍の問題を世界の人人に分かる形で提出せず、古き良き日本を前面に押し出した伝統的な世界を描いたからです。その結果、エキゾチックな日本の姿を世界に知らしめることはできましたが、日本文学の国際化という点では後退したと言わざるを得ません。しかし、欧米文学に親しんでいた1980年代当時のちよつとおませな私には、ひなびた温泉場の風俗や四季の移ろい、芸者の官能美などが作りだす日本文学の世界に不思議な魅力を感じずにはいられませんでした。

日本文学の可能性

1980年代初頭の韓国では、日本語を学ぶことに後ろめたさを感じるような社会的雰囲気がありました。当然、日本文学への関心も低く、英米文学などに比べて日本文学の位相は実に貧しいものでした。そうした現状に不満を抱いていた私は、それ

までの韓国における日本文学の位相を覆し、新たな日本文学像を構築したいと思うようになりました。古き良き日本社会をエキゾチックに描いた文学作品から、私の関心はやがて明治開国とともに始まった日本の近代文学が、西欧近代文学の圧倒的な影響下に発展した事実へと移っていきました。

なぜなら、韓国の近代文学も西洋文学の圧倒的な影響下で発展してきたからです。但し問題は、日本の近代文学の担い手たちが西欧の文学理念や技法、モチーフなどを積極的に取り入れることによって、従来の日本文学にない新しい境地を切り開いたのに対し、韓国の近代文学者は本能的に変容した西欧の理論などを取り入れて文学の近代化を図ったことです。これは、西洋近代文学をただ一方的に受け入れていただけと思われる日本文学の近代文学が、実は韓国近代文学の起源に深くかわつていたということの意味します。そして



国木田独歩『運命』

き上げた作品しか知らなかった読者を、少なからず驚かせたようです。しかし、たとえ範囲は狭くても100年前の日本文学もやはり東アジアの若者に愛されていたという事実を、私たちは忘れるわけにはいかないのです。

て、自然主義文学の先駆者と言われる国木田独歩は、韓国近代文学の起源にもっとも深くかわつた日本文学者なのです。

東アジアと日本文学

国木田独歩は、ワーズワースやツルゲーネフ、モーパッサンなど欧米文学の影響を受けて従来の小説概念の常識を打ち破る新しい短編スタイルを完成し、明治のみならず大正・昭和の日本文壇に大きな影響を与えました。そして、国木田独歩の作品は日本文壇だけでなく、韓国や中国台湾といった東アジア地域の近代文学の成立にまで影響を及ぼしていました。この事実はいくら強調してもし過ぎることはないでしょう。

2010年現在、村上春樹の作品は約40カ国・地域で翻訳され、民族や国家、イデオロギーの違いを超えて読まれています。この事実は、古き良き日本社会をエキゾチックに描

外国のことを学ぶことは自分の国を再発見すること

韓国の国際大学で日本語と日本文学を学び、卒業後日本へ留学し、横浜国立大学と筑波大学の大学院で日本語・日本文学、日韓の比較文学を研究しました。

高校の時、川端康成の『雪国』の翻訳を読んだことがきっかけで日本に関心を持つようになりました。それまで読んでいた欧米の文学とは違う雰囲気を感じました。日本語を話せた父親の影響もありましたし、当時、日本は経済的に急成長していた時代で、「これからは日本の時代」という気運があり、韓国の大学で一斉に日本語学科が開設されるという背景もありました。

大学に入学した80年代初めの韓国は、民主化を求める学生たちによる抗議運動が盛り上がっていた時代です。勉強する環境ではなく、楽しい思い出は少ないのです。むしろ日本に留学して学生らしい生活を経験できたと思います。ただ、日本の学生は政治にまったく無頓着で、カルチャーショックでした。

いわゆる反日世代で民族主義的な教育を受けてきましたので、日本に対しては否定的な視点、イメージを持っていましたが、留学して日本の良さを知りました。同時に日本を通して韓国の歴史、文化、いろいろなものを再発見し、それを自分なりに客観的な視点で構築

できたことが、とてもうれしいことです。留学が私にくれたプレゼントではないかと思っています。外国のことを学ぶことは自分の国を再発見することなのです。留学したことで、あらためて韓国への愛情もわいてきましたし、自分が本当にやりたいことが分かってきました。ですから、学生たちには、「もっと、外の世界に目を向けてほしい」と思います。

【丁 貴連】



留学生時代、JICA（国際協力機構）で通訳のアルバイトをする。来日した韓国の青年たちと同行し、研修や観光で日本全国を巡る。「地方に行くと日本の本当の姿が見えてきました」（左から3人目が丁教授）

My Campus Life

私の
学生
時代

24時間耐久レーボウリング大会を開催

24時間ボウリングをプレーし続ける「24時間耐久レーボウリング大会」が9月15日10時から16日10時まで宇都宮トーヨーボウルで開催された。宇都宮大学生協学生委員会主催の毎年恒例の人気行事で、今年は第25回大会という記念の大会。学生たちはサークルや部活、ゼミの仲間など10人で1チームを結成し34チームが参加。120ゲームのスコアとカラオケ大会などのゲーム企画の得点の総合得点により順位が決定され、今年は卓球部員で結成された「UUTTC」チームが総合優勝した。



附属幼稚園で栃木SCのサッカー教室を開催！

教育学部附属幼稚園で9月14日、栃木サッカークラブ地域活性化グループコーチングスタッフによるサッカー教室「キッズスマイルキャラバン」が開催された。ボール遊びから始まり、ドリブルやシュートの練習に続いてゲームを開始。最後は握手で「ありがとう！」とスポーツマンシップも学んだ。本学は本年2月に栃木SCとの連携協力に関する協定を締結。今後さまざまな企画を実施する予定。



農学部で秋祭りを開催

農学部の秋祭りが9月30日に峰キャンパスいこいの広場で開催された。あいにくの雨模様だったが、アトラクションとして、丸太切り大会、丸板への焼印などのイベントが行われ、夕方までに約400名の参加者があり、学生、教職員、地域の方々が交流を深めた。また環境改善学生サポーター「ECHO」の提案により、使い捨て容器および割り箸などを環境配慮型のものにし、分別回収を徹底した。



里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム修了式を挙行

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムの実施後初めてとなる修了式が9月30日に行われ、「地域鳥獣管理プランナー」8名、「地域鳥獣管理専門員」9名、合計17名に修了証が授与された。同プログラムは、鳥獣害の専門的な知識と技術を備え、地域で指導的な役割を果たすことのできる人材を養成することが目的。農学部附属里山科学センターを実施本部に、昨年10月から日本初の本格的な人材養成の試みとして開始された。



農学部附属農場が「教育関係共同利用拠点」に認定



農学部附属農場が、「首都圏における食・生命・環境の複合型フィールド教育共同利用拠点」として「教育関係共同利用拠点」に認定された。大学の有する人的・物的資源の共同利用などを推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開させることを目的とした新たな制度で、農場分野では、本学と広島大学の2大学が初めて認定された。認定期間は、2015年3月31日までで、本年度は、4大学の受け入れを予定している。

コンクリートカーヌー大会で本学チームが優勝！

土木学会関東支部主催「第16回土木系学生によるコンクリートカーヌー大会」(8月28日・埼玉県戸田市の荒川調整池彩湖・レース距離300メートル)で、工学部建設学科建設工学コース材料研究室チームが優勝し、昨年度に続いて2連覇を果たした。決勝レースの記録は、1分56秒で大会新記録だった。また、カーヌー製作についての技術審査およびポスターによるプレゼンテーションも評価され、技術賞も受賞した。



本学で初めての学長表彰

学術上顕著な研究業績をあげ本学の名誉を著しく高めた功績により、農学部の夏秋知英教授、高橋美智子准教授の両名に対し、学長表彰を行った。学長表彰制度は職員表彰規程に基づくもので、本学においては初めてのこと。受賞理由は次のとおり。夏秋教授「植物ウイルス病ワクチンの開発と製品化に関する研究」に対する、平成22年度産学官連携功労者表彰・農林水産大臣賞受賞。高橋准教授「高等植物におけるニコチアナミンの役割と機能に関する研究」に対する、平成22年度文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。



附属図書館を高校生に開放

峰キャンパスの附属図書館を8月17日から9月30日までの期間、高校生の学習の場として開放した。本学として初の試み。宇都宮市内には県立図書館、宇都宮市立図書館、同東図書館などがあるが、高校生が学習に利用できる閲覧席は夏休み期間は満席になることが多い。このため、本学は「学生の図書館の利用が減る夏休み期間を有効利用してもらおう」と高校生の学習の場として開放し、好評を得た。



第59回関東甲信越大学体育大会開催。本学から285名が15競技に参加

第59回関東甲信越大学体育大会が8月16日から31日までの16日間にわたり新潟県新潟市、長岡市及び長野県松本市で開催された。関東甲信越地区にある13の国公立大学の約3,500名の学生が17の競技に参加し熱戦が繰り広げられた。本学からは285名が15競技に参加した。

【団体戦】		【個人戦】	
バレーボール(男子)	優勝	陸上競技	女子100m
剣道(男子)	準優勝		男子1500m
バレーボール(女子)	準優勝		男子走高跳
バドミントン(女子)	準優勝	剣道	男子
弓道(男子)	第3位	柔道	男子81kg以下級
卓球(女子)	第3位		



ベストレクチャー賞表彰

宇都宮大学ベストレクチャー賞表彰式が9月8日および10月13日に行われ、優れた講義により同賞を受賞した教員に進村学長から表彰状が授与された。受賞者は次のとおり。



共通教育センター「Integrated English A・A」担当教員グループ、江川美知子教授、五十嵐香教員(特定科目担当) 鬼頭和也教員(同) 恒安真佐教員(同) 藤井拓哉教員(同) 吉田守利教員(同) 国際学部 田口卓臣講師 同 清水奈名子講師 同 松尾昌樹准教授

第4回宇都宮大学企業交流会を開催

本学の研究内容を地元企業に広く伝え、産学連携のきっかけにする第4回宇都宮大学企業交流会が、9月6日宇都宮市内で開催され、約530人が参加した。昨年に比べ展示スペースが3倍以上に拡大され、研究発表ブース・コーナーも約3割多い116に拡充された。研究発表ブースでは、植物ウイルス病ワクチンを開発し産学官連携功労者表彰・農林水産大臣賞を受けた夏秋知英教授らの研究成果が展示された。また、今回初めて本学が関係する産学連携事例コーナーが設けられ15組の技術、製品が紹介された。



宇都宮大学検定問題

問1. 宇都宮大学のキャッチフレーズ「豊かな発想を()に、新たな知を()へ」の・に入る正しい組み合わせはどれでしょう？

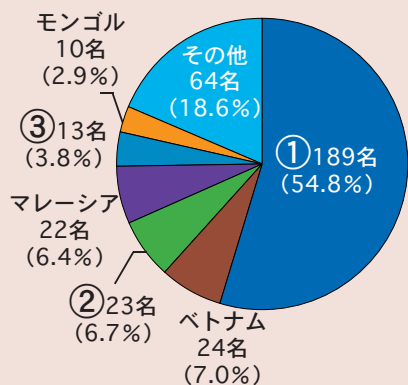
A. 地域 世界 B. 地域 全国 C. 栃木 全国

問2. 宇都宮大学に在学している留学生の出身国のグラフで正しい組み合わせはどれでしょう？(2010年5月現在)

A. 中国 台湾 韓国
B. 中国 韓国 台湾
C. 韓国 中国 台湾

問3. 宇都宮大学附属図書館の蔵書数は約何冊でしょう？(2010年5月現在)

A. 約22万冊
B. 約42万冊
C. 約62万冊



(解答は14ページ)

学生アンケート

宇大生は!

学食の好きなメニューランキング



丼もの

- 1位. 豚生姜焼き丼 (S340円、M370円、L420円)
価格がお手頃でおいしい。(国際・3年・栃木県立栃木女子高校卒 ♀)
- 2位. パワー丼 (S370円、M400円、L450円)
おいしい! 半熟卵が好き。(国際・4年・青森県立三沢高校卒 ♀)
- 3位. 中華丼 (S340円、M370円、L420円)
安いのに野菜や肉が入っていてお得!
(教育・2年・岡山県立倉敷古城池高校卒 ♀)
- 4位. カレーライス (S220円、M250円、L340円)
- 5位. カツ丼 (夕食限定/S370円、M400円)



豚生姜焼き丼



中華丼



パワー丼

麺類

- 1位. サラダ冷やしうどん (季節限定/410円)
さっぱりしていて夏にはいいです。
(工・1年・静岡県立御殿場南高校卒 ♀)
- 2位. ざるそば (季節限定/300円)
軽く食事をとりたいときにちょうど良いポリコーム。
(教育・4年・栃木県立黒磯高校卒 ♀)
- 3位. 冷麺 (季節限定/420円)
じりからで夏バテにきく!(国際・3年・青森県立青森東高校卒 ♀)
- 4位. 担々麺 (410円)
- 5位. 鶏唐ラーメン (400円)



サラダ冷やしうどん



ざるそば

おかず

- 1位. おろし唐揚げ (190円)
唐揚げがサクサクしていておいしい。(教育・1年・宮城県佐沼高校卒 ♀)
- 2位. 桜姫鶏のチキンかつ (290円)
ポリコームがあってガッツリ食べたいときにいい。
(工・4年・茨城県立境高校卒 ♀)
- 3位. 鯖の味噌煮 (160円)
家庭的な味が恋しくなったときは是非食べて欲しいです。
(国際・3年・群馬県立前橋女子高校卒 ♀)
- 4位. チキンおろしだれ (290円)
- 5位. クリームチーズメンチ (160円)



桜姫鶏のチキンかつ



鯖の味噌煮



チキンおろしだれ



おろし唐揚げ

その他

- ☆フレッシュパイン (80円)
甘くておいしいです。(農・1年・栃木県立茂木高校卒 ♀)
- ☆豚汁 (小70円、大110円)
具たくさんでおいしい。(工・1年・私立浦和学院高校卒 ♀)
- ☆サラダバー (100g=110円)
好きなサラダが選べて良い。(農・3年・栃木県立宇都宮女子高校卒 ♀)



フレッシュパイン



豚汁



サラダバー

INFORMATION

宇都宮大学管弦楽団第70回定期演奏会

日時: 2010年12月18日(土) 18:00開演(17:30開場)
場所: 宇都宮市文化会館大ホール
指揮: 北原幸男 独奏: 阿久澤政行
曲目: ヴェルディ作曲 歌劇「ナブッコ」序曲
グリーグ作曲 ピアノ協奏曲イ短調
チャイコフスキー作曲 交響曲第5番ホ短調
入場料: 小・中・高校生500円 大学生・一般800円
○問い合わせ先: 学務部学生支援課 TEL: 028-649-5097



第11回 午後のコンサート【入場無料】

~教育学部「音楽アウトリーチ研究」受講者による~
日時: 2010年12月22日(水) 16:00開演
場所: 大学会館多目的ホール
○問い合わせ先: 教育学部総務係 TEL: 028-649-5242

公開研究会

日時: 2011年2月18日(金) 9:50~15:30
場所: 教育学部附属特別支援学校
内容: 公開授業、全体会、分科会
研究主題: ICFを活用した個別的教育支援計画の在り方
~豊かな社会生活を送るために~(第2年次)
○問い合わせ先: 教育学部附属特別支援学校
TEL: 028-621-3871

第60回卒業研究・修了研究公開発表会【入場無料】

教育学部音楽教育専攻・大学院教育学研究科音楽教育専修
日時: 2011年2月26日(土) 午後
場所: 栃木県総合文化センターサブホール
○問い合わせ先: 教育学部総務係 TEL: 028-649-5242

教育学部音楽教育専攻4年生研究演奏会【入場無料】

日時: 2010年11月20日(土) 13:30開演
場所: 教育学部C棟2階合奏室
曲目: 久保田早紀「トマト売りの歌」
木下大輔「ウルムスのかどで」
○問い合わせ先: 教育学部総務係 TEL: 028-649-5242

第62回峰ヶ丘祭【学生主催】

日程: 2010年11月20日(土)~22日(月)
会場: 峰キャンパス
内容: 模擬店、展示・成果発表(屋内)、芸能人ライブ等
○問い合わせ先: 大学祭実行委員会事務局
TEL: 028-634-5877

保育を語る会

第1・2回は終了しました。
第3回 日時: 2010年12月4日(土) 9:00~
場所: 教育学部附属幼稚園
内容: 公開保育・保育研究・講演
テーマ: 生きる力の基礎としての幼児期の協同する経験
第4回 日時: 2011年2月5日(土) 9:00~
場所: 教育学部附属幼稚園
内容: 公開保育・保育研究
テーマ: 仲間の一員としての「私」の在り方
○問い合わせ先: 教育学部附属幼稚園
TEL: 028-622-9051

学内合同企業・公務員等説明会

日時: 2010年12月13日(月) 14:30~18:00【公務員】
2010年12月14日(火)~17日(金) 13:00~17:00【企業】
場所: 大学会館多目的ホール 他
対象: 学部3年生及び大学院1年生(他の学年でも参加可)
内容: ブース形式による個別説明会
詳細は参加企業ガイドで確認してください
○問い合わせ先: キャリア教育・就職支援センター
TEL: 028-649-5089

ANSWERANSWERANSWERANSWERANSW 宇大検 定 解 答 ANSWERANSWERANSWERANSWERANSWER

- 問1. A. 地域 世界
宇都宮大学は、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」をキャッチフレーズとして、高度な専門職業人の育成に努めるとともに、基礎研究と最先端研究を推進し、研究の成果を地域のみならず広く世界に発信しています。
- 問2. B. 中国 韓国 台湾
2010年5月現在、345名の留学生が在学しています。中国からの留学生が189名で半数以上、ベトナム24名、韓国23名、マレーシア22名、台湾13名、モンゴル10名とアジア諸国が続きます。その他にも、アメリカ・イギリス・オーストラリアなど、世界各国からの留学生が本学で学んでいます。
- 問3. C. 約62万冊
峰キャンパスの本館と陽東キャンパスの分館をあわせて62万冊に近い蔵書を誇っています。また、コンピュータ室をはじめ館内の各所に100台近いパソコンを設置し、海外の電子ジャーナル約6000タイトルを読むこともできます。



- サークル紹介 -

大学祭実行委員会

Circle
pin-up

第62回峰ヶ丘祭【11月20日(土)～22日(月)】

テーマは「宇天決行」

年に1回の大イベントである大学祭。今年のテーマは「宇天決行」に決まりました。これは、「雨天決行」の「雨」を宇都宮の「宇」に変えた造語です。宇都宮大生はどのような状況でも実行する力を持っていることを、この大学祭で多くの人に見てもらいたい。このような願いを込めてテーマを決定しました。

私たち実行委員会は主に大学祭の運営を行っています。実行委員会は委員長のほかに、総務局・企画局・渉外局・広報局の4つの部署に分かれています。総務局は参加団体への書類配布や物品支給、企画局では当日のステージでイベントを行い、渉外局は企業との交渉、広報局はパンフレットやホームページの作成を行っています。実行委員会についてさらに詳しく知りたい方は、インターネットで「宇都宮大学・大学祭」を検索してみてください。



実行委員会で活動していると、普段は見るできない大学祭の裏側を見ることができます。また、大学祭を成功させる喜び、楽しさを味わうことができ、一生の思い出

を作ることでもあります。大学祭実行委員会に興味を持った方は是非大学祭の時にスタッフに声を掛けてください。大学祭の裏側や大学祭を成功させる喜び、楽しさをお伝えします。

みなさまのご来場を、実行委員会一同お待ちしております。

広報局 澤野遼太郎(工学部2年)



UU now 第23号 ● 編集後記 ●

■ 編集後記

「ROBINTERVIEW」では中村屋の染谷社長に取材をさせていただきました。お忙しい中、一つひとつの質問に丁寧にお答えくださり、勉強になるお話を伺うことができました。社長のご厚意で「カリ」をご馳走になりましたが、絶品でした。ご馳走様でした。

「Welcome to 研究室」の写真撮影をした工学部 計測・ロボット工学研究室。研究室を探索して通り過ぎてしまった私を学生さんが呼びに来てくれました。ありがとうございます。工学部の研究室や発表の様子を拝見し、先生を中心とした研究室の絆を感じることができました。

「UU News」で里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム修了式について紹介しました。今年は猛暑の影響で、山の木の实が少なく猿や熊の出没が多いうです。プログラム修了者の方々に活躍していただきたいと思うと同時に、私たちも野生鳥獣との共存について考えなければいけないと感じました。

今年もいよいよ大学祭の季節になりました。大学祭実行委員会の学生さんが一生懸命企画・運営をしていますので、みなさんぜひ足を運んで、大学祭を楽しんでください。

編集委員 長嶋奈津美



■ 企画広報課では、みなさまの声をお待ちしております。ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。
【宛先】宇都宮大学 企画広報課
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail: plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇都宮大学
携帯サイトへGO!